

[診療科のご案内]

歯科口腔外科

口腔外科とは歯、顎骨などの硬組織および舌、唾液腺などの軟組織を含めた口腔付属臓器に関連する疾病に対して診療を行う科です。

当科は口腔および顎顔面の病気の全般について治療を行っており、内容は手術が中心です。

診療として、炎症、埋伏歯、嚢胞、外傷、腫瘍など手術を中心とした疾患、口腔の内科的要素を持つ疾患、粘膜疾患、顎関節症などの診察を行います。

検査は最新の医療器械（CT、MRI、シンチ、超音波）を利用し各種検査を行っております。インプラント植立前の顎骨のデンタルCT検査も行っています。

【**外来診療**】内容は埋伏歯、歯性感染症、良性腫瘍、外傷などの手術を中心に行っています。

口腔の内科的要素を持った疾患である口腔乾燥症、味覚異常、舌痛症など、粘膜疾患（白板症、扁平苔癬など）、神経痛（三叉神経痛、不明顔面痛）、ウイルス感染症を診察しております。

顎関節の雑音、側頭部痛、開口障害などの症状を伴う顎関節症の診断、検査、治療も行っております。

歯科治療は有病者の観血処置（抜歯など）、入院患者様の応急処置を行います。

【**入院診療**】内容は嚢胞（顎骨内嚢胞、軟組織内嚢胞など）、外傷（顎骨骨折、頬骨骨折、軟組織損傷など）、口腔感染症（顎骨骨膜炎、顔面・頸部の蜂窩織炎など）、腫瘍（口腔癌、良性腫瘍、唾液腺腫瘍など）、歯牙疾患（埋伏歯など）、その他（唾石症、顎変形症など）の手術です。

年間200名以上の方が入院治療を受けてみえます。（平成14年233名）

【**病診連携**】当科初診の4割が紹介患者様で、稲沢市を含め近隣の5市3郡の医療機関からの紹介です。稲沢市民病院歯科口腔外科では地域医療に携わる先生方との緊密な連携を大切にしています。

平成2年から西春日井郡歯科医師会、平成11年から中島歯科医師会と病診連携をすすめております。

【**臨床研修**】日本口腔外科学会研修機関病院（指導医 日下雅裕、認定医 石井 興）、歯科医師臨床研修指定病院（複合研修法式）に認定されており、研修医を受け入れております。

**** ご理解ください! ****

当科は、地域の一次医療機関からの紹介を受けて、二次的な、より高度な医療に対応しています。このため、病状の安定している患者様の虫歯や入れ歯や歯ぐきの治療は、近医の先生に紹介しお願いしております。ご理解ください。



皆さんの中で奥歯に虫歯がないのに、痛みを感じたり歯ぐきが腫れたりした経験をされたことはありませんか。この症状は親知らず（智歯）が原因の時が多々あります。智歯は十代の後半から生えはじめ、親が気付かないうちに生えることが多いので、「親知らず」と呼ばれています。智歯が生えるときには痛みが伴う場合が多く、場合によっては顔が腫れて発熱し、口を開けることが出来なくなります。病状が悪化するにつれて食事をするのが困難となり、入院治療が必要になることもあります。

現代人は、生活様式などの変化によりあごの骨がしだいにスマートになってきています。歯の大きさは変化が少なく、顎の骨が小さくなっているため智歯が正常に生えることが少なくなりました。智歯が正常に生えれば問題ありませんが、萌出異常の智歯は何度も感染して痛みが出ますので、抜歯することをお勧めします。

昔の人は、「親知らずを抜くと死んでしまう」と言って恐れられていましたが、最近は新しい診断機器、手術器具が導入され比較的容易に手術を行うことが出来るようになりました。手術後は感染を抑える抗生物質を内服することで、術後の症状が速やかに改善します。市民病院の口腔外科では抜歯の手術は外来手術が中心ですが、深く埋没した智歯や多数の智歯を一度に抜歯するときは、入院して行います。

智歯による弊害は多く、感染すると智歯周囲炎から骨膜炎を併発することがあります。智歯が生えるにつれて歯並びが悪くなる時もあり、また埋没した智歯の歯冠（頭）を中心に骨を吸収する病気（嚢胞）もみられます。

親知らずについてお悩みの方は、なるべくかかりつけの歯科医院の先生に御相談して頂き、紹介状を持って市民病院を受診して下さいと幸いです。

（歯科口腔外科部長 日下雅裕）



平成15年2月4日～2月6日までの3日間当院の講義室において腎臓病教室を開催しました。合計約100名の参加があり、盛況でした。このたび、教室を主催した血液浄化センター、3病棟4階の皆様と参加して下さいました方々の感想をレポートしたので報告します。

【参加者の声】53歳の女性

- (Q) この教室を何で知ることができたのですか。
 (A) 「広報いなざわで知りました」
 (Q) 受講の動機はいかがですか。
 (A) 「両親が糖尿病を持っています。母は10年間透析を受けた後、亡くなりました。今、父がシャントをつくった状態です。父はいつ透析を受けることになるのかと心配で毎日いららの生活を送っています。そのため少しでも知識を得て、父に話ができればと思い参加しました」
 (Q) 受講していかがでしたか。
 (A) 「食事のこと、病気のこと、薬のこと、日常生活のことなどたくさんのが学べました。母の時にこのような知識があれば母はもっと安心して生活できたのにと残念です。さっそく父に話します。今度は父も参加させたいと思います」

【主催者側の声】

- (看護師 A) 「一言で言うとこんなに参加者があり、うれしいです。この光景を見て、準備は大変だったけど今後に向けて力が湧いてきました」
 (看護師 B) 「透析の導入期を延長したい気持ちがひしひしと伝わってきます。他の教室と比較して参加者全員の肩に力が入っているような感じがします」
 (看護師 C) 「今後はだれもが気軽に参加できる教室の内容にしていきたい。成人病が少しでも予防できるように支援していきたいと思います」
 (担当医師) 「一方的な教えではなく、共に病気を考えていく教室にしていきたい。そして病院に来て頂くようなシステムではなく、今後は病院の職員が積極的に地域に出かけて地域住民と共に健康を考えていきたい」

この教室を開催するにあたり、たくさんのエネルギーを使ったと思いますが、参加して良かったという声が何よりの大きな励みになったのではないかと思います。（広報委員）

稲沢市民病院 診療担当医師一覧表

平成15年2月1日現在

診療科名	時間区分	診察区分	月 曜 日	火 曜 日	水 曜 日	木 曜 日	金 曜 日	備 考
内 科	午 前	1 診	寺澤 <消化器>	奥山名誉院長 <内分泌>	黒川副院長 <消化器>	奥山名誉院長 <内分泌>	寺澤 <消化器>	
		2 診	福井 <循環器>	黒川副院長 <消化器>	福井 <循環器>	糟谷 <内分泌>	福井 <循環器>	
		3 診	小林 <内分泌>	斉藤 <消化器>	馬場 <腎>	小林 <内分泌>	長尾 <呼吸器>	
		5 診	広瀬 <循環器>	宮川 <腎>	宮川 <腎>	山本 <腎>	宮川 <腎>	
		6 診	桐山 <内分泌>	荒尾 <消化器>	鷓飼 <消化器>	荒尾 <消化器>	広瀬 <循環器>	
		7 診フリ-	荒尾	糟谷	桐山	斉藤	黒川副院長	
		8 診フリ-	服部	山本	市川	馬場	鷓飼	
		午 後 (予約制)		斉藤<消化器> 糟谷<内分泌> 宮川<腎>	福井<循環器> 広瀬<循環器> 市川<内分泌>	荒尾<消化器> 寺澤<消化器> 山田(克)<内分泌> 宮川<腎>	服部<消化器> 桐山<内分泌> (白木<腎>) 吉田<神経>	桝永<内分泌> 小林<内分泌> 山本<腎>
小 児 科	午 前	1 診 2 診	柳瀬 藤巻	城所	柳瀬	藤巻	柳瀬 城所	
	午 後 (予約制)		予防接種	柳瀬・藤巻 <慢性外来>	1か月健診	柳瀬・城所 <慢性外来>	乳幼児健診 (第1週以外) <心臓外来> <神経外来>	(第1週) (第1、3、5週)
外 科	午 前	1 診 2 診	小野 西垣	宮本 住田	上松 小児外科	小野 秋山	宮本 住田	
	午 後 (予約制)				小口(ウマチ)			
脳神経外科	午 前	1 診 2 診	山田院長 ――	岩越 ――	山田院長 岩越	丹羽 ――	丹羽 ――	
	午 後		傍島	森川	傍島	加藤	傍島	
泌 尿 器 科	午 前		傍島	森川	傍島	加藤	傍島	
	午 後		傍島	――	――	加藤	――	
整 形 外 科	午 前	1 診 2 診	吉村 今村	今村 加納	橘 小口	今村 加納	加納 橘	
	午 後 (予約制)		――	――	小口(ウマチ)	――	――	
皮 膚 科	午 前	1 診 2 診	正木 横田	正木 横田	正木 横田	正木 横田	正木 横田	
	午 後	2:00 ~ 4:00	横田	――	正木	――	富田(第1金:予約制)	
産 婦 人 科	午 前	婦 人 科 産 科	清野 井上	井上 片山	片山 清野	片山 井上	井上 清野	
眼 科	午 前	1 診 2 診	池間 鈴木	池間 鈴木	池間 鈴木	池間 鈴木	池間 鈴木	
	午 後 (予約制)		――	――	――	池間(網膜)	――	
耳 鼻 咽 喉 科	午 前	初診・フリ-診 予 約 診	柘植 八木	加地 柘植	佐藤 八木	柘植 八木	八木 柘植	
	午 後 (予約制)		予約学生診(3時~)	柳田(1時~)	――	柳田(1時~)	――	
10 歯 科 ・ 口 腔 外 科	午 前	初 診 再 診	石井 日下	日下 石井	日下 石井	加藤 日下	石井 加藤	

救急室のご利用について

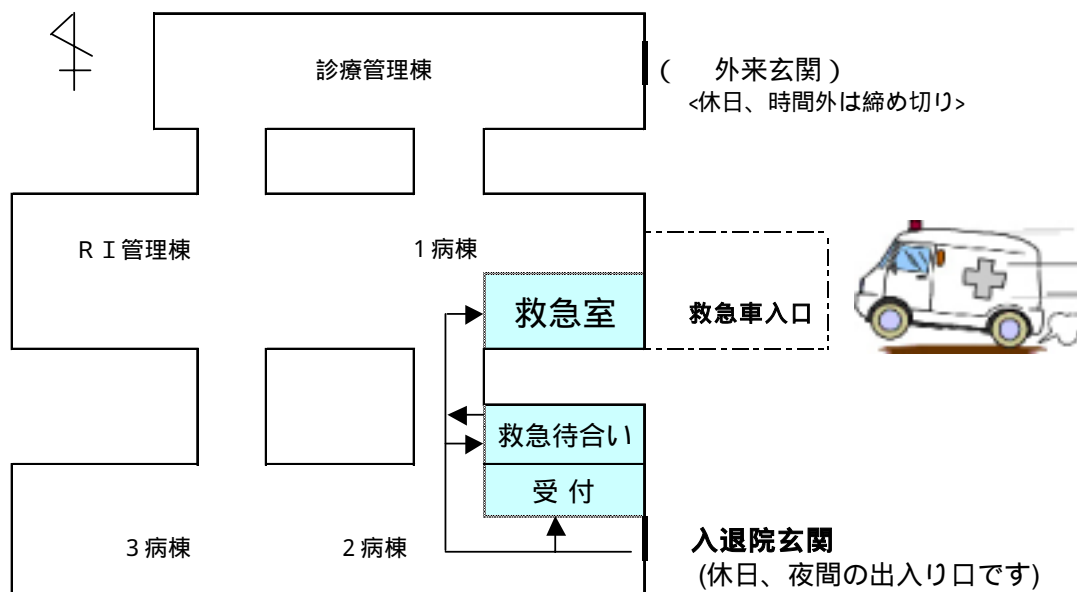
市民病院に救急室がありますがご存知でしょうか？毎月、約1000人の方に利用していただいています。救急室の利用について、紹介させていただきたいと思います。

救急室は突然の病気やケガ、急を要する容態の方など、どなたでも、24時間いつでも受診することができます。もちろん、小児も成人も高齢者も、軽症も重症も関係ありません。市民病院にかかっておられない方でも受診できます。

ただ、救急室は命に係るような重篤な方への蘇生処置や、緊急手術を必要とする方を最優先で処置する場所です。救急車の患者さんも搬送されてきます。このため、混雑したり、順番が入れ替わったり、皆様にご迷惑をおかけすることもあります。

また、診察や治療の内容も通常の外来と同じではありません。応急的な治療や処置を優先しますので、後日、通常の外来を受診していただき、更に精密な検査や治療が必要な場合も多くあります。救急室を受診して状態が良くなっても、その後の治療を中断することはよくありませんので、平日の受診をお願いいたします。

(救急室 小野 要)



稲沢市民病院ニュース 第4号

発行日 平成15年2月14日発行
発行元 稲沢市民病院 広報委員会
492-8510 稲沢市御供所町1-1

ご意見をお待ちしています

電話 0587(32)2111
ファックス 0587(32)2151
電子メール hospital@city.inazawa.aichi.jp